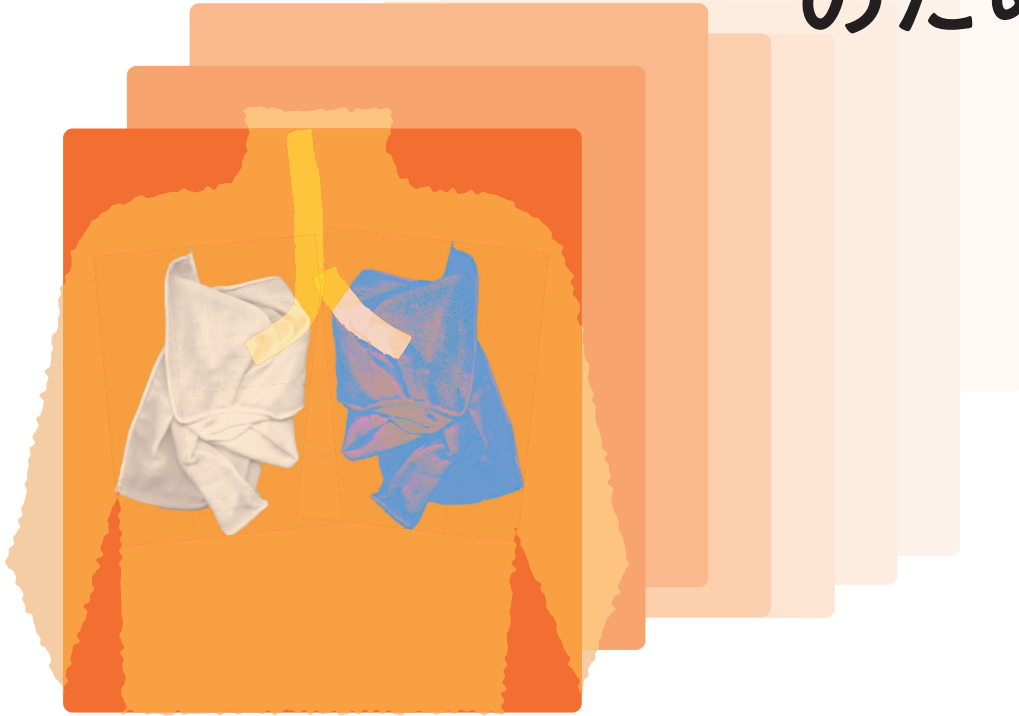




肺炎球菌ワクチン、 健康寿命増進 のために



はじめに

小児科医が高齢者の肺炎を心配する理由

田中 敏博 静岡厚生病院 小児科

教育講演①

小児用肺炎球菌ワクチンの定期接種導入後の状況について

ファイザー株式会社

教育講演②

高齢者肺炎球菌ワクチンの現状

MSD株式会社 メディカルアフェアーズ

特別講演

高齢者を守る予防接種：その先駆け、肺炎球菌ワクチンをもっとよく知ろう！

岡田 賢司 福岡看護大学大学院
福岡歯科大学医科歯科総合病院 予防接種センター

2023.7.5 水 15:15-16:45

オンライン
配信のみ

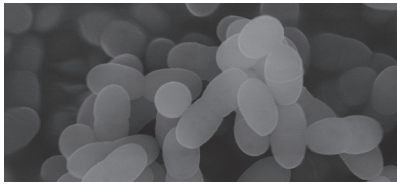
対象 行政関係者、医師、薬剤師、その他医療関係者等

定員 500名 無料

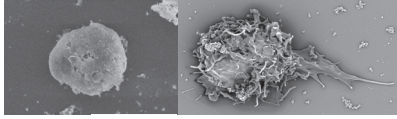
申込 HPまたは右記URLよりお申し込みください。



ウイルス感染防御の司令塔pDCを活性化する ユニークな乳酸菌の可能性



L. lactis strain Plasma



L. lactis strain PlasmaによるpDC活性化の電子顕微鏡像
(左:未添加 右:添加後)

プラズマ乳酸菌¹⁾ (*L. lactis* strain Plasma) は、他の多くの乳酸菌とは異なり、pDC(プラズマサイトイド樹状細胞)を直接活性化するという性質を持つ。この乳酸菌のDNAは、pDCに取り込まれた後、エンドソーム内に局在するTLR9/MyD88のリガンドとして作用し、免疫系を賦活化する。²⁾

活性化されたpDCは、抗ウイルス因子であるIFN- α を大量に産生するだけでなく、獲得免疫系を含むウイルス感染防御機構全体を活性化することがわかっている。

L. lactis strain Plasmaのもつ作用機序は、小腸に局在するpDCの直接活性化を介したものであるため、生菌として腸管に到達する必要がなく、安定かつ安全な死菌を利用した幅広い食品への応用が可能であり、免疫力の弱い小児や高齢者にも日常的に摂取しやすい。

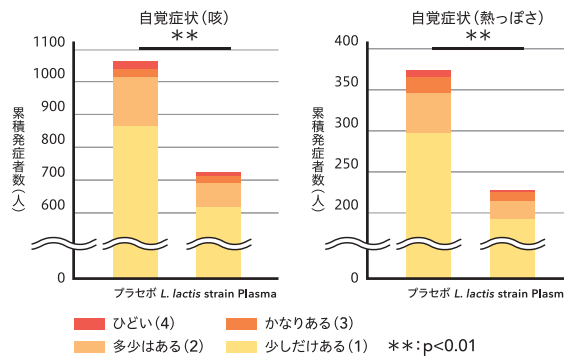
既に*L. lactis* strain Plasmaの摂取により風邪・インフルエンザ様症状の発症を軽減することなどが複数の研究により確認されているが、現在も様々な研究が進行中である。

[2023年4月現在：非臨床試験16報、臨床試験17報]

[ヒトにおけるプラズマ乳酸菌摂取時の
インフルエンザ様自覚症状³⁾]

最新の情報は

右記のウェブサイト
に掲載されています



健康人ボランティアに対する二重盲検並行群間試験。冬季にプラズマ乳酸菌で作ったヨーグルトを摂取させ、期間中の累積自覚症状スコアを解析した。

- 1) 国立研究開発法人理化学研究所が管理する *Lactococcus lactis* JCM 5805株
- 2) PLoS One (2012), 7:e32588
- 3) Sugimura T, et al: Br J Nutr, 114:727-733, 2015

キリンホールディングス株式会社
<https://health.kirin.co.jp/>



ワクチンで、守れる幸せがある。

